

令和3年度～令和5年度
地学協働活動推進実証事業
(北海道 CLASS プロジェクト)
研究報告書 (資料編)

北海道教育庁

生涯学習推進局社会教育課・学校教育局高校教育課・学校教育局義務教育課

令和6年3月

目 次

1 研究指定校の資料

(1) 北海道当別高校の資料	2
(2) 北海道白老東高校の資料	31
(3) 北海道上富良野高校の資料	60
(4) 北海道帯広三条高校の資料	86
(5) 北海道夕張高校の資料	122
(6) 北海道鷗川高校の資料	146
(7) 北海道豊富高校の資料	177
(8) 北海道本別高校の資料	199

2 全道の実践事例

(1) 北海道余市紅志高校	236
(2) 北海道浦河高校	238
(3) 北海道南茅部高校	240
(4) 北海道上ノ国高校	242
(5) 北海道羽幌高校	244
(6) 北海道津別高校	246
(7) 北海道白糠高校	248
(8) 北海道中標津支援学校（高等部）	250

1 研究指定校の資料

(1) 北海道当別高校の資料

- 当 1 令和3年度 北海道 CLASS プロジェクト実施計画書（1年次）《第1次》
- 当 2 令和3年度 北海道 CLASS プロジェクト実施計画書（1年次）《第2次》
- 当 3 令和3年度 北海道 CLASS プロジェクト実施報告書（1年次）
- 当 4 令和4年度 北海道 CLASS プロジェクト実施計画書（2年次）
- 当 5 令和4年度 北海道 CLASS プロジェクト実施成果報告書（2年次）
- 当 6 令和5年度 北海道 CLASS プロジェクト実施計画書（3年次）
- 当 7 コンソーシアム規約・目標
- 当 8 全道地学協働活動研究大会発表資料
- 当 9 令和5年度 北海道 CLASS プロジェクト実施成果報告書（3年次）

資料 当 1

令和 3 年度 北海道CLASSプロジェクト実施計画書（1 年次） 《第 1 次》

学校名	北海道当別高等学校
作成日	令和 3 年 6 月 30 日

1 課題把握

(1) これまでの学校と地域の関係・取組

- （園芸デザイン科）
地域と連携し、町内の花壇整備など主体的な農業クラブ活動展開している。
- （家政科）
町教委事業高齢者大学の受講者との交流や町子育て支援センターを利用する保護者との交流など地域社会とかかわる学習活動に取り組んでいる。
- （ボランティア局）
平成 26 年度から当別町の素晴らしさを町内外に伝える「青春フットパス」を企画、運営している。

(2) 現状における課題

- ・当別高校に対する地域の認識と学校の認識にずれがあり、学校の魅力を地域に伝え切れていないこともあり、地元からの入学者が少ない。
- ・仙台藩岩出山領からの入植などの歴史や当別町出身の作家の文学作品等、豊富にある当別町の歴史や文化等の資源をカリキュラムに活用し切れていない。

2 仮説検討・テーマ設定・目標設定

(1) 研究仮説

総合的な探究の時間等において、生徒が自ら地域に触れ、地域の問題に目を向け、地域と連携、協働して課題を解決することにより、生徒自身が小さな達成感を積み重ね、生徒自身の自己肯定感を向上させることができる。この過程を通して、生徒自身が地域の発展に寄与していると感じることで、主体的に問題を発見する力、課題を解決する力を育み、地域への課題意識や貢献意識を高め、当別町ならではの新しい価値を創造する人材を育成することができる。

【期待する生徒や学校、地域の変容】

（生徒）

- ・生徒が自ら考え、行動する力を身につけ、地域への課題意識が高まる。
- ・自己肯定感が向上し、何事にも積極的に取り組む姿勢が見られる。

（学校）

- ・生徒の地域への貢献意識が高まることで、地域との連携が深まり、学校に対する地域の見方が変わり、地元からの進学者が増加する。
- ・地域課題をテーマにしたカリキュラムを作成することにより、教科横断的な学習を取り入れた授業改善が進み、生徒が主体的に学ぶ姿が見られる。

（地域）

- ・学校に対する理解が深まり、学校、生徒を支える機運が高まる。

資料 当 1

- ・総合的な探究の時間により今までとは別な視点で地域課題に目を向けることができる。
- ・地域人材の活躍の場が増加することによりまちづくりを担う人材が育成され、地域の活性化に結びつく。

【検証方法】

- ・学校評価（保護者・教員）等に検証するための質問項目の設定
- ・外部人材を活用した授業の実施数の比較
- ・地元からの進学者数

(2) 研究テーマ

身近な問題に気づき、探究、解決する力の育成

(3) 今年度の目標

- 1 「当別を知る」をテーマに、実施可能な教科による「総合的な探究の時間」を先行実施する。
- 2 「総合的な探究の時間」のカリキュラムをコーディネーターと協力して作成する。
- 3 「コンソーシアム」を立ち上げる。

3 研究の具体

(1) 研究内容（選択する項目を■にしてください）

以下について、総合的な探究の時間のカリキュラムの検討と合わせて整理している。

- 「Collaboration」【地域・産業界等との連携・推進】
（内容）
- 「Literacy」【学んだことを将来に生かす能力】
（内容）
- 「Adult」【多くの大人が子どもと一緒にあった取組の推進】
（内容）
- 「Student」【生徒理解に基づく指導の充実】
（内容）
- 「System」【学校と地域の連携・協働の仕組みづくり】
（内容）

資料 当 1

(2) 研究成果の普及方法

・ 研究報告書を作成し、関係者に配付するとともに、学校HP上で公開する。

(3) 研究のイメージ（概要等）

別紙のとおり

(4) 研究組織

① コンソーシアム構成図

現在、コンソーシアム組織の構成等について、準備を進めている。
12月までに構成について確定し、2月に第1回コンソーシアム会議を開催する
予定

② 校内体制

職 名	氏 名	担当教科・分掌等
校長	宮 本 匠	
教頭	古 主 信	
教諭	神 田 忠 治	教務部長
教諭	佐々木 豊	1学年主任
教諭	吉 浜 康 次	普通科
教諭	高 橋 寿 幸	園芸デザイン科長
教諭	足 達 しずか	家政科長

4 その他特記すべき事項

当別高CLASSプロジェクト

【研究仮設】

生徒が自ら地域に触れ、地域の問題に目を向け、地域と連携、協働して課題を解決することにより、生徒自身が小さな達成感を積み重ね、生徒自身の自己肯定感を向上させることができる。この過程を通して、生徒自身が地域の発展に寄与していることを感じることができ、主体的に問題を発見する力、課題を解決する力を育み、地域への課題意識や貢献意識を高め、当別町ならではの新しい価値を創造する持続可能な地域づくりの担い手を育成することができる。



資料 当 2

令和 3 年度 北海道CLASSプロジェクト実施計画書（1 年次） 《第 2 次》

学校名	北海道当別高等学校
作成日	令和 3 年 9 月 2 9 日

1 3 年間の目標

<ul style="list-style-type: none"> ・ 3 愛精神と当別高校が目指すべき資質・能力の 6 項目が身につく ・ 当別町及び通学可能な中学生を中心に積極的に選ばれる高校になる ・ 本校の生徒が発案した町の発展のための事業が具体化される

2 年次ごとの目標と取組計画

月	取 組
1 年次 (R3)	(目標) ・ 1 学年の中で「総合的な探究の時間」の先行実施 ・ 「総合的な探究の時間」のカリキュラムの策定 ・ コンソーシアムを立ち上げ (主な取組) ・ 地域コーディネーターと取組内容を検討、協議する ・ 校内委員会を中心に内容を検討し実施する ・ 職員会議において進捗状況を確認する ・ 月 1 回のプロジェクト推進会議を行う (検証の項目) ※定量及び定性 ・ 教職員の満足度 80% 以上のカリキュラム作成 ・ 今年度の取組に対する生徒の意識調査の満足度 80% 以上 ・ 取組へ保護者からの理解と期待が高まる ・ 取組へ地域（学校関係者、中学校等）から理解と期待が高まる
2 年次 (R4) 【予定】	(目標) ・ 「総合的な探究の時間」の本格実施 ・ コーディネーター機能の活用による地域教育資源の積極活用 (主な取組) ・ 「総合的な探究の時間」を計画どおり実施 ・ 地域コーディネーター、教員のサポートにより生徒の個別のテーマに沿った学習の推進 (検証の項目) ※定量及び定性 ・ 今年度の取組に対する生徒の意識調査の満足度 85% 以上 ・ 取組へ地域（学校関係者、中学校等）から理解が深まる
3 年次 (R5) 【予定】	(目標) ・ 当別町との連携、協働体制の確立 ・ 生徒の学習成果の発表 (主な取組) ・ 地域の様々な機関との連携、協働した取組を実施する ・ 生徒の成果発表を校内、校外で実施する (検証の項目) ※定量及び定性 ・ 今年度の取組に対する生徒の意識調査の満足度 90% 以上 ・ 取組へ地域（学校関係者、中学校等）から協力体制ができる

資料 当 2

3 今年度の検証の項目と方法

検証の項目	検証の方法
教職員のカリキュラムの理解	アンケート
生徒の学習内容の理解	アンケート
保護者のプロジェクト内容への理解	アンケート
地域のプロジェクト内容への理解	アンケート

4 今年度（令和3年度）の計画

月	取組
5	第1回プロジェクト推進会議
6	校内組織の立ち上げ、第2回プロジェクト推進会議
7	地域コーディネーター、取組内容、実施計画等の検討 第3回プロジェクト推進会議
8	地域コーディネーター決定、第4回プロジェクト推進会議
9	校内プロジェクト会議、第5回プロジェクト推進会議 総合的な探究の時間試行実施①
10	校内プロジェクト会議、第6回プロジェクト推進会議 総合的な探究の時間試行実施②、カリキュラム（案）作成 コンソーシアム（案）作成
11	校内プロジェクト会議、第7回プロジェクト推進会議 総合的な探究の時間試行実施③、カリキュラム（案）検討 コンソーシアム（案）検討
12	校内プロジェクト会議、第8回プロジェクト推進会議 総合的な探究の時間試行実施④、カリキュラム（案）完成 コンソーシアム（案）完成
1	校内プロジェクト会議、第9回プロジェクト推進会議 来年度の実施計画（案）作成
2	校内プロジェクト会議、第10回プロジェクト推進会議 来年度の実施計画（案）検討
3	校内プロジェクト会議、第11回プロジェクト推進会議 来年度の計画

5 その他特記すべき事項

--

資料 当3

令和3年度 北海道CLASSプロジェクト実施報告書（1年次）

学校名	北海道当別高等学校
作成日	令和4年3月22日

1 今年度の検証について

①	検証の項目	教職員のカリキュラムの理解
	検証の方法	意見等収集
	検証結果	本事業を導入した当初、教職員の理解を得るために、担当学年と校内組織を設置し、職員会議での情報共有を重ね理解は深まった。

②	検証の項目	生徒の学習内容の理解
	検証の方法	担当教員の評価
	検証結果	年度途中から、可能な範囲で取組を進めたが、実施できたものについては概ね、地域理解等につながった。

③	検証の項目	保護者のプロジェクト内容への理解
	検証の方法	情報提供
	検証結果	保護者全体の理解にはつながらなかったが、活性化協議会（拡大評議委員会）の中で、徐々に内容の理解が広がった。

④	検証の項目	地域のプロジェクト内容への理解
	検証の方法	アンケート
	検証結果	今年度は未実施のため来年度は実施したい。

2 今年度（令和3年度）の取組

月	コンソーシアム会議・関係者打合せ等	主な学習活動
4		
5	第1回プロジェクト推進会議	
6	第2回プロジェクト推進会議	
7	第3回プロジェクト推進会議	
8	第4回プロジェクト推進会議	
9	校内プロジェクト会議 第5回プロジェクト推進会議	9月 社会人講話
10	校内プロジェクト会議 第6回プロジェクト推進会議	10月 キャリア教育学習会 当別青春フットパス実施
11	校内プロジェクト会議 第7回プロジェクト推進会議	11月 認知症サポーター養成講座 医療大生による進路説明会

資料 当 3

12	校内プロジェクト会議 第 8 回プロジェクト推進会議	1 月 つるし雑制作 医療大生による進路説明会 2 月 SDGs 学習 3 月 専科のプロジェクト学習発表会 医療大生による進路説明会
1	校内プロジェクト会議 第 9 回プロジェクト推進会議	
2	校内プロジェクト会議 第 1 回コンソーシアム会議	
3	校内プロジェクト会議 第 10 回プロジェクト推進会議	

3 組織化に関する検証【推進校のみ】

(1) コーディネーター選出の方針

- ・ 当別町において青年世代で地域活動に積極的に取り組んでいる方
- ・ 当別町内の関係箇所とつながりがある方

(2) コーディネーター選出の方法

- ・ プロジェクト会議参加する当別町教委の社会教育主事に候補者の選出を依頼
- ・ 選出されて複数の候補者について、学校、当該社教主事、教育局で協議の上、1 名に絞り、学校長が面談、意図を説明して了解を得た。

(3) コーディネーターとの連携

- ・ 機会ある毎に担当教諭と打合せを行った。
- ・ 個別に教員の考えを聴く機会を持った。
- ・ 月に 1 回程度、学校・町教委・教育局で打合せを行い、進捗状況や取組の方向性について共有した。

(4) コンソーシアム設置に関わっての方針

- ・ 学校が総合的な探究の時間などで連携したい団体と既存の学校評議員、活性化協議会のメンバーなどを候補に挙げ、選出した。

(5) コンソーシアム設置に関わっての方法

- ・ 学校長とコーディネーターが事前に候補者に内諾をとった後、候補者個々を訪問し役割について説明し、承諾を得た。

(6) コンソーシアム会議における議題

- ・ 北海道 CLASS プロジェクト事業説明
- ・ コンソーシアム会議の規約説明
- ・ コンソーシアム会議の目標の説明
- ・ 総合的な探究のカリキュラムの説明
- ・ 来年度からの当別高校の取組についての意見、期待すること

4 組織化以外の成果等

- ・ 来年度の総合的な探究の時間の具体的な取組内容を編成できた。
- ・ 来年度の具体的な校内組織を確定できた。
- ・ 本事業に対する教職員の意識が前向きに変わった。